

台風0418号による厳島神社周辺の強風被害について

○丸山 敬・河井宏允・益田健吾・田村幸雄・松井正宏・内田孝紀

1. 要 旨

2004年9月7日に広島県の厳島神社を襲った台風18号による被害について、9月8、9日および16、17日にかけて現地調査を行い、厳島神社および周辺の被害状況や強風に関する各種データを集め、それらの資料をもとに、当時の気象状況、強風性状を明らかにし、被害の実態について報告する。

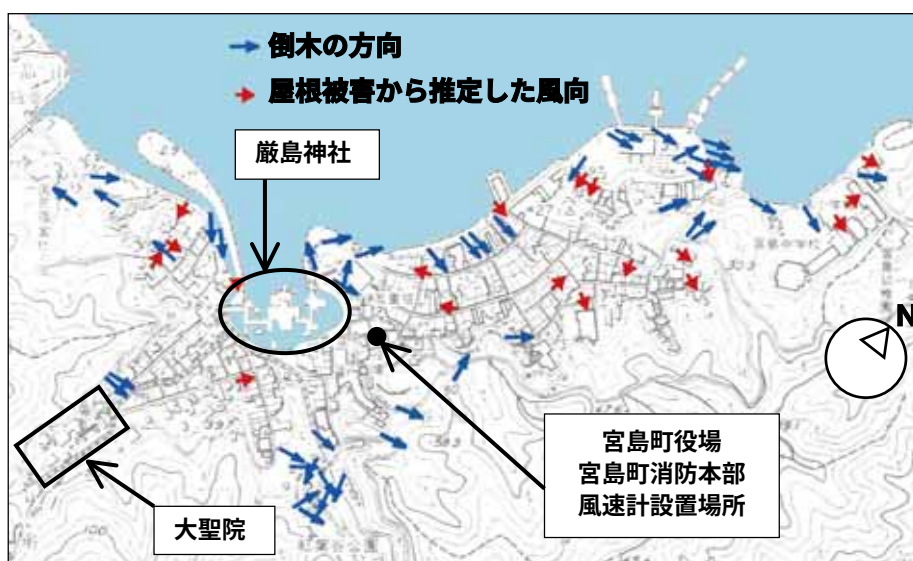
今回の厳島神社の被害は強風および高潮と波によるものであった。被害を起こした強風については、被害状況および証言、ビデオ画像によると、台風の接近に伴いその風向が変化し、地形の影響を受けて複雑な吹き方をしていたことがわかっ

た。また、南の大聖院を通る谷筋を吹き降りる強風も確認された。さらに、被害を及ぼす台風の進路は、これまでの被害同様、台風が九州に上陸し、日本海に抜けるコースをたどるものであった。

山の背後を剥離しないで風が吹き下ろす現象は、台風9119号でも報告されており、台風の構造やその被害を考える上で重要であるとの指摘があり、数値計算による解析を行っている。また、厳島神社では、今回に限らず過去にも同様な被害を受けていることを考えると、今後も同様な被害を受ける可能性が高い。



厳島神社の被害の様子



厳島神社周辺の倒木の方向および屋根被害から推定した風向